

平成 27 年 9 月の解説（府県天気予報）

【9 月の天候状況】

上旬は、低気圧や前線が日本付近を通過することが多く、東北地方から奄美地方にかけては、8 月下旬から引き続いて曇りや雨の日が多く、低温となりました。9 日には台風第 18 号が東海地方に上陸し、東日本太平洋側を中心に広い範囲で大雨となりました。さらに、日本の東海上を台風第 17 号が北上した影響も加わって、関東地方から東北地方では南から湿った空気が長時間にわたって流れ込んだため、11 日にかけて記録的な大雨となり、河川のはん濫など大きな被害が生じました（平成 27 年 9 月関東・東北豪雨）。東日本太平洋側では旬降水量が平年の 418%となり、1961 年の統計開始以来、9 月上旬としては最も多い記録を更新しました。

中旬は、高気圧と低気圧が交互に通過し、北日本から東日本では天気は数日の周期で変化しましたが、西日本を中心に、大陸からの冷涼で乾いた高気圧に覆われた日が多く、東日本以西では低温となり、西日本では気温がかなり低くなりました。沖縄・奄美では高気圧に覆われて概ね晴れました。18 日から 19 日にかけては台風第 20 号が小笠原諸島に接近して暴風雨となり、父島では 2 日間で 290.0mm、月間で 316.5mm の降水量となり、1968 年の統計開始以来、9 月の月降水量の多い方からの 1 位の値を更新しました。

下旬は、本州付近を高気圧と低気圧が交互に通過し、北・東・西日本では天気が数日の周期で変わりました。沖縄・奄美では、期間を通して概ね晴れましたが、27 日と 28 日は台風第 21 号が沖縄の南を北西に進んだため、先島諸島を中心に暴風雨となりました。与那国島では、81.1m/s の最大瞬間風速を記録し、1957 年 5 月からの統計開始以来、最も大きい風速となりました。

月平均気温は、東・西日本で低く、北日本と沖縄・奄美では平年並でした。月降水量は、東日本太平洋側でかなり多く、北日本太平洋側で多くなりました。千葉（千葉県）と父島（東京都）では 9 月の月降水量の多い方からの 1 位の値を更新しました。一方、沖縄・奄美では少なくなりました。月間日照時間は、北・東日本日本海側で少なくなりました。

【9 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 5 ポイント高い 86%で、明後日予報は例年値より 3 ポイント高い 80%でした。各地方の適中率では、明日予報は全ての地方で例年値以上となり、特に東北、北陸、沖縄の各地方で 7 ポイント高くなりました。明後日予報の適中率は、九州北部・南部を除いた全ての地方で例年値以上となりました。特に沖縄地方で 11 ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3 小さい 1.5 となり、全ての地方で例年値以下となりました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2 小さい 1.1 となり、全ての地方で例年値以下となりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【11 月の天気予報の利用にあたって】

次第に冬型の気圧配置の頻度が増え、北日本や日本海側を中心にみぞれや雪の降る日が多くなります。降水が雨となるか雪となるかは、地上や上空の気温および湿度などの状況によって決まります。11 月は真冬に比べると気温が高いため、まだ本格的な雪の季節に入るわけではありませんが、雪は、降れば視界が悪くなり、積雪や凍結により路面が滑りやすくなるなど、降水量が少なくても交通や生活に大きな障害となります。雪の予報や雪に関する気象情報に気をつけて、雪への備えを心がけてください。